

平成 30 年度 地域ケアプラザ事業報告書

■ 施設名

奈良地域ケアプラザ

■ 事業報告

今年度、地域ケアプラザの管理運営をどのように行ったのか、具体的に記載してください。

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との共通部分

1 全事業共通

地域の現状と課題について

(高齢者)

独居や夫婦のみの高齢者世帯はどの地域にもみられ、様々な生き辛さを抱えている。具体的には、日常生活面における金銭管理（例えば、光熱水費を初めとする支払や通販の過購入等）、健康管理（通院できない・しない問題、服薬管理不能、アルコール過剰摂取等）、情報収集の不能、移動手段確保困難等であり、ここ数年同様高齢世帯の貧困問題に多く取り組んできた。いわゆる普通に年金を受け取っている世帯でも、あるケースでは支出が収入を上回り、生活の維持が困難になっている。このようなケースは今年度もみられ、関係諸機関との関係を維持しつつ対応してきた。

独居高齢者の 30%に身元保証人がいないという調査もあり、家族・親族がいてもその関係は日々に疎くなっている。親族のいない高齢者の入院・手術を要する緊急時の対応について、制度作りが確立していない中で包括職員を始めケアマネジャーは右往左往している。早急に対策が求められるべきで行政への働きかけを継続して行なってきた。また、身の整理に向けた後見制度の利用も行政の協力をえながら、できる限り速やかに対応してきた。

奈良北団地においては、UR の事業戦略により、これまで高齢（独居）の住民が奈良北団地に集められてきたが新たに若い世代への働きかけが始まっている。成果のほどはわからないが、子育て中のお母さんたちとのイベント企画をしたり、地域ケア会議への参加を求めたりと若い世代の入居に備えた仕掛けづくりが行えたと思う。外国籍の入居者との住民トラブルも若干起こっており、私たちができることは何か考えてきた。彼らが必要としているサポートは何か、高齢独居並びに高齢夫婦世帯の急増も含めて時代の先端を歩いている地域に対し、考えることは多く、常に気にかけている状態であった。

(障害者)

地域からの要望を背中に感じ、長期戦を覚悟した支援を地道に継続してきた。やはり、いずれも長期的な関わりが必要で、近道は今のところ見つからない。今年度も地域ケア会議や面談等を通して、地域の方に正しい情報を伝えいく努力を続けてきた。

また、教育熱心な家庭で成長した地域の子どもたちが、成人して以降、様々なきっかけにより家庭にひきこもっているという状況(いわゆる 8050 問題)は引き続き地域全体に見られた。ひきこもりに対しては、年齢に関係なく無理に引き出そうとする働きかけは無効であるという事を意識しながら、必要な対応を行ってきた。過去、40年以上にわたり、経済成長優先・競争原理の働く教育施策が、それに応じきれない子どもを産み出すことになってしまった事実を常に意識し、今後も産まれてくるだろう世の中のシステムに乗り切れない子どもたちのことを想定し、学校を始めとした教育各機関と連携をとろうと試みてきたが、教育の壁は変わらず暑い。

知的障害者支援については、引き続き併設する青葉メゾンと連携をとり、地域での

課題等に対応してきた。

(子ども・母親)

育児に漠然とした不安を抱えている母親が、ソーシャルメディアによる情報過多の中で疲れている。母親同士の関係の維持に不安や疲労を覚えている母親も多いようであるが、そのようなことを感じなくてよい関係性の作り方を先輩のママたちからの関わりより学び、ケアプラザ事業では緊張する表情の母親たちを見なくなった。一方で何があってもすぐに不安と結びつく若い母親たちに「大丈夫だよ」という声掛けは継続している。一人でも多くの母親とその子たちに出会い、それぞれの存在を肯定し合える関係づくりも落ち着きを見せ始め、20年後、30年後の安定した地域づくりの礎ができてきている実感を持つ。

(地域づくり)

現役時代から近所との付き合いを欠いてきた男性が、地域を意識することは難しい。無理に地域を意識させるのではなく、個々に地域の中で活躍できる場を設け、気がついた時には地域の役割を担っているという仕組みが必要と考えてきたが、なかなか実現に至らなかった。今年度は60歳からの準備講座等を開き参加者と対話の機会を設けてきたが、コミュニケーションはまだ入り口に立ったようなところである。空き家問題についても住民意識に上がってきているが、適切な対応には至っていない。

(その他)

行政・福祉保健団体と日頃から連携に努め、情報の交換を正しく行ってきた。引き続き、お互いの機関がオーバーラップしつつ機能できていたと思う。福祉保健団体の担い手の高齢化、人数不足はより深刻となり、地域の事業も継続が困難になったものがある。

行政が縦割りの中に相互に矛盾した施策を実践していることに気づくように様々な機会をとらえ、主張してきた。

より高い専門性をもって、積極的に地域に介入していくため、機会を捉えものの見方考え方の例を職員に示してきた。関係各機関との信頼の構築をはかりつつ、情報の適切な保護を継続的に行ってきた。今後ますます支援が難しくなるとされる地域(人々)に対し、迅速かつ適当な支援が行えるようにするためである。

広報活動については、これまで行われてきたものを地道に繰り返し続ける一方、ネットを使用した広報に努めてきた。

地域に対して、共感し、協働するための活動や仕組みづくりを求めてきたが、成果を見るまでには、瞬く時間が必要である。

(1) 相談 (高齢者・子ども・障害者分野等の情報提供)

相談数は変わらず多く、相談内容もこれまで同様多岐にわたっている。同時に多問題を抱えたケースがあたり前になり、一つのケースに向き合う時間も多くなり、業務の滞りがみられ始めている。住民が住みなれた地域で安心して生活ができるように、医療・福祉・行政等の関係機関との連携を適切に図りながら問題解決に取り組み、また地域の民生委員や医療機関・商店街等との顔の見える関係づくりを推進してきた。結果として早期発見ができ、適切な支援に取り組めた。

子育て支援における相談では、おさんぽ広場やリトミック等の事業において専門家やベテランママの力を借り、また、民生・児童委員の方の参加を仰ぎつつ、活動の中で相談を受けきた。必要に応じて専門機関であるラフルや区職員による相談に繋げることもできたように思う。

また、地域の小学校・中学校・北部学校教育事務所との連携を進め、教育を地域に開かれたものにしていきたいと考えたが、教育関係の障壁は高かった。

障害児者支援においては、障害者施設併設の利点を生かし、必要に応じて相談機関への連絡調整が出来る環境を整えてきた。

(2) 各事業の連携

常に、事業所内において情報交換を密に行う姿勢を持ち続けてきた。これは介護保険事業においても同様である。職員間の風通しは歳を追うごとによくなっている。

特に5職種においては、所長が職種を兼務しているにも関わらず、定期的に5職種会議を開催しお互いの情報を交換をし、共有化された情報を基にお互いを見ながら、業務を進め、相談者にとっても、好ましい状態を作ろうと努力をしてきた。

(3) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

将来にわたって、地域包括支援センターの職員体制に欠員が生じないように、資格取得を計画的に行うことは現行の配置基準では現実的に不可能である。包括支援センターでは現有職員の育成は可能であるが、後に続く職員の育成機能を人件費の関係で備えることができない。現行職員にあっては、研修への参加や上司との対話を通し、自らを振り返りながら技術の向上を目指してきた。

公正・中立性の確保においては、情報量と面接技術が大きく影響する。現状の職員の能力にあっては、十分に公正・中立性に関する知識を有し、利用者対応も適切にできていたと思う。相談者の心の声に耳を傾け、感情のセルフコントロールができるよという視点で、研鑽にも努めてきた。

(4) 地域福祉保健のネットワーク構築

地域包括では毎月、奈良、奈良北民児協定例会等に参加して情報交換や連携について話し合いをし、共同事業を行ってきた。生活支援C○、地域活動交流C○も可能な限り同席をし、地域の情報収集に努めてきた。

青葉メゾン・奈良地域ケアプラザ祭りでは近隣自治会主催の「はらっぱ祭り」、緑協和病院主催「緑協和秋祭り」との同時開催を実現し、地域と医療と福祉との連携を深めてきた。

2つの地区社協との情報交換も定期的に行い、お互いの事業を補完できるよう努めてきた。

(5) 区行政との協働

お互いに時間をかけてきた課題に対し、解決をするという強い意志とともに事に当たってきた。区役所と共に仕事をしている実感のある1年であった。

3年目となった生活支援体制整備事業では、区役所及び区社協、他関係機関との連携は当然のこととし、地域を歩き回る中で地域のニーズを把握するという原点に立ち返った活動を行ってきた。十分とは言えない点が多いため、次年度の継続して行きたい。

地区別推進会議、地区別チーム会議等に参画し、福祉保健計画の推進を支援してきた。

2 地域活動交流事業

(1) 自主企画事業

子育てネットワーク連絡会において協議の上、地域の子育て拠点を散策する事業を開催。地域で活動している街の家族や奈良保育園との連携が実現し、今後の事業展開のヒントを得ることができた。土曜日に父親育児講座を開催したが、集客に苦慮した。再度ニーズを見極める必要を感じた。子育て支援においてはサイクルが速いため、常時参加者募集周知を行っていききたい。
5職種共催で介護教室、60歳からの知っ得くセミナーをシリーズで開催。5職種会議等で企画を検討し、情報共有もなされている。

(2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

会場利用を希望する団体には、空き状況を情報として提供し、可能な限り希望日程を利用できるよう、調整に努めた。また団体Ⅱにおいては希望によりボランティア活動の紹介を実施しボランティア活動の促進を促している。
ケアプラザ事業から自主化した介護予防教室（体操教室）では定期的に活動ができるよう日程調整、活動の周知、新規受入窓口等の後方支援を行っている。

(3) ボランティアの育成及びコーディネート

協力団体へボランティア活動場所の情報提供を行い、活動の機会を広げている。また、地域の子育て経験者の協力を得ることができた。
ここならカフェやえんがわ倶楽部ではボランティアが定着し、運営の一端を担っている。
60歳からの知っ得くセミナーの一環でボランティア入門講座を開催。地域のボランティア団体や高齢者介護施設でのボランティア活動の紹介を実施。

(4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

地域のサロンや老人会などに出向き、支援者や参加者と会話することにより、地域状況の把握やケアプラザからの情報発信をすることができた。
毎月ブログを更新し、事業等の情報提供を実施。
会場利用団体の交流会を開催し顔の見える関係づくりに努めている。商店街を周り、ケアプラザの周知を実施。

3 生活支援体制整備事業

(1) 事業実施体制

生活支援体制整備事業は生活支援コーディネーターだけでは推進することが困難であり、所長(今年度は兼務)をはじめケアプラザ各部署、区役所、区社協とも連携を取りながら認知症カフェ、介護教室、60歳からの知っ得くセミナー等の事業に取り組んできた。

また、地域の福祉保健団体（自治会・地区社協・民児協・老人会等）、ボランティアグループ、NPO団体、サービス事業者、一般企業等、多様な事業主体とも顔の見える関係を構築し、地域全体の取り組みをその課題と共に捉えるべく努力をしてきた。

(2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

地区社協、民児協等の会合、地域活動に参加することにより地域の活動を把握し、新しく把握した情報はA y a m uシステムで管理してきた。

地域包括支援センターの総合相談や訪問介護等のサービス内容を調査し、生活支援のニーズを把握し、配食・宅配・家事援助・外出支援・通いの場などの民間企業（市場分野）を含めた生活支援サービスの整理・把握をし、行政の支出を減らすという事業のそもそもの目的と本人の実費負担が増加する(持ち出しのボランティアでは限度がある)という困った問題の解決を図るべく、課題の分析を行おうとしてきたが道半ばである。

(3) 連携・協議の場

定期的にケアプラザ内の各職種、5職種間で会議を行い、各部署の特性を活かしながら相互に協力体制をとりつつ生活支援体制整備事業の推進に取り組んできた。

地区別推進会議や地区社協、民児協等の地域の活動や会合へ積極的に参加し、日常的に意見交換ができる関係・場を作り、地域課題解決に向けて情報共有・取り組みの支援を行ってきたが道半ばである。

ケアプラザ各部署と協力しながら地域ケア会議・協議体等を開催し、地域課題について検討を行い、住民主体の地域福祉活動を支援してきたが、こちらも道半ばである。

(4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

青葉区地域福祉保健計画にかかわる会議へ参加。地区別推進会議や地域の福祉保健活動に参加し、計画の推進に努めてきた。

区域で開催している生活支援コーディネーター連絡会において、なかなか方向性が立たなかったメンバーに対し、自信をもって活動に取り組むよう話をしたところ、情報交換等しながら地域の課題に向き合うことができた。

日常生活圏域で解決できない課題については、同じ課題を抱えている他の地域と連携して解決に向けて取り組んでいこうと思ったが、次年度の課題となる。

4 地域包括支援センター運営事業

(1) 総合相談支援業務

① 地域におけるネットワークの構築

○地域の商店街、医療機関等への継続訪問の他、新たに訪問先の開拓を行った。特に薬局に事業案内を含めて複数回訪問することで、協力体制をさらに得ることができた。

○民児協定例会への参加を継続することで、個別ケースや地域の情報共有等を図りながら支援が必要なケースの早期発見や対応、連携した支援に繋げることができている。また今年度はエリアの全老人クラブに顔を出したことで、より顔の見える関係づくりを構築することができた。

○地域ケア会議、ケースカンファレンス、包括カンファレンス等の開催を通して地域を支える連携体制について意見交換し、具体的な連携体制を築いている。

○地域の会合等でオリジナルチラシを配布したり、店舗等にチラシの設置協力を依頼する等、地域包括支援センターの周知に努めた。

② 実態把握

○区、区社協等からのデータの提供情報による地域住民の実態・特性等を理解するとともに、独自に総合相談の町別の分析を行うことで、感覚だけでなく実態として地域の特性をより理解することができた。

○奈良地区社協主催の住民向けアンケートによる要望の把握や、事業ごとの参加者アンケート等から個別ニーズを把握することができた。

○商店街や医療機関等との面談等を通して、直接地域の高齢者の実態について情報提供を得ることができ、それにより支援体制の構築に繋げることができている。

③総合相談支援

○相談内容等をPC管理することでタイムリーに情報共有ができ、それにより迅速かつ継続的に支援することができている。また継続的な支援が必要なケースは個別ファイルを作成し、継続的なフォローに繋げている。また交通の利便性にも配慮し、地域の特性から適宜訪問による支援も行っている。

○介護保険のみならず、個別ニーズに沿ったフォーマル、インフォーマルサービスの情報提供を行い、かつ関係機関(ボランティアグループ、NPO法人、団地管理事務所、区社協、行政等)と連携を図りながら適切な支援ができるようにした。また困難事例等については、関係機関と連携しながら対応・支援に努めている。

○困難ケースや多問題ケースの増加に伴い在宅生活の維持が難しくなっている。そのため高齢になっても自立した生活を維持することを目的として、今年度新たな取組として五職種共催事業「人生100年時代 60歳からの知っ得くセミナー」の連続講座を開催した。

○適宜研修等に参加し自己研鑽に努めるとともに、全体のスキルアップに繋げている。

(2) 権利擁護業務

①成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

○連続講座の一環や恩田 CP 共催事業として「エンディングノート&成年後見制度」の講座を開催し、より多くの住民に成年後見制度等の普及啓発に繋げることができた。

○成年後見制度に関する相談が年々多くなり、士業の先生や医療機関、区社協、介護支援専門員、区役所等と積極的に連携しながらに成年後見制度の申立て支援等を行った。

○消費者被害の危機感が薄いためか講座を開いても参加者が少ないため、多くの方々に消費者被害の普及啓発ができるように会合に出向いて周知するなど工夫した。

②高齢者虐待への対応

○虐待および虐待の疑いのあるケースは多問題を抱えていることが多く、区地区担当と情報共有・連携を図りながら対応・支援に努めた。

○虐待を発見する立場の多い通所介護職員向けに高齢者虐待の講座を開催し、高齢者虐待防止に対する普及啓発に努めた。

○民生委員や介護支援専門員等へ介護者のつどいへの支援協力を依頼し、1人でも多くの方に介護者のつどいに参加してもらい、介護者の負担軽減および虐待防止に繋げられるように努めた。

③認知症

○認知症カフェ(月1回)、認知症サポーター養成講座(老人クラブ、一般住民、中学校)、介護教室(年3回)等を開催し、認知症に関する正しい知識や理解の普及・啓発に努めることができた。

○エリアのキャラバンメイトに認知症サポーター養成講座の参加協力を行い、メイト同士の横の繋がりに努めた。

○認知症による徘徊の個別ケースの地域ケア会議を開催し、地域住民等へ認知症の理解を図ると共に地域の支援体制構築に努めた。

○認知症に対する不安や認知症の疑いが考えられると判断した場合は専門医療機関の案内をし、受診につなげるよう助言している。また、対応の難しいケースは、認知症初期集中チームと連携して受診につなげている。

○介護者のつどいでは、認知症患者を介護する家族が、認知症に対する理解が深められるように支援している。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

①地域住民、関係機関等との連携推進支援

○商店街や地元機関への訪問、民児協や老人会への顔出し、ねっとわーく青葉開催、ケアマネジャーへ地域のインフォーマルサービスや地域住民向け事業の情報提供、等は例年通り実施し、ケアプラザや地域包括支援センターの役割の周知や連携強化に努めた。

○居宅事業所訪問や電話での相談において、生活支援COとの同行訪問の機会を持ち、社会資源ニーズのアンケート調査を実施した。

○ケアプラザ開催事業にエリアの全介護施設(居住型含む)による住民向け説明の機会を設ける。又、各サービス事業所や医療関係者にカフェに参加頂き、地域住民がいつでも相談できる顔の見える関係づくりに繋げた。

○ボランティア団体、民生委員、地区社協、地域住民向けに介護保険制度、認知症等、周知に向けた講演や説明会をケアプラザ内外で実施した。

○エリアの介護保険施設、地域密着型サービス事業所との会合等の場では、地域住民の困り事と事業所のできる事と情報交換が図れた。

②医療・介護の連携推進支援

○クリニック・病院・薬局への定期訪問時に、地域住民向け事業とケアマネ向け事業・研修の一覧表も配布してケアプラザやケアマネジャーの役割や機能の周知に繋がるよう努めた。例年の顔出しによりCP事業チラシ配布などの協力が得られる医療機関が増えている。

○ケアプラザ協力医により地域のケアマネジャーとサービス事業所向けの勉強会を2回開催。顔の見える関係づくりとなり、日々の業務に役立っている。

○地域包括支援センター主催、青葉区医療拠点主催での医療介護の多職種での事例検討会や意見交換会を開催した。連携ノート(イエローノート)や青葉区版MCS、入退院連携シートの情報提供、活用に向けた働きかけを行い。多職種連携強化に繋げた。

③ケアマネジャー支援

○電話での適宜の相談の他、毎月の事業所訪問において個別ケース相談や事業所としての取り組み等について相談指導を行った。

○単独、他包括支援センター共催によるケアマネジャー向けの研修会(事例検討会、意見交換会など含む)をほぼ毎月の開催を行った。

○区内包括支援センター共同して、新任ケアマネ研修や意見交換会、主任ケアマネ連絡会立ち上げを行った。スキルに応じた仲間作りや研修実施の支援を行った。単独ではエリアの新任ケアマネ(2年未満)の意見交換会の場を設けた。

○新任ケアマネケース、多職種連携・医療連携・生活困窮、後見制度活用に向け、ケ

アマネのみでは対応の難しい事例での相談においては、積極的に同行訪問や担当者会議参加を行い、相談支援を行った。

(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

○徘徊にある高齢者の個別ケース地域ケア会議を現時点で2件開催した。地域住民の他、商店街も参加して、地域全体での見守りや居場所作りの必要性の意見もあがり、地域課題の一つとして共有をすることができる会議となった。

○エリア地域ケア会議においては、子育て世代の住民も参加して、高齢者や転入者の孤立予防にむけ地域の取り組みを多職種で協議し、具体的対応策を検討した。

○ゴミ屋敷、引きこもりなど発達障害が要因と思われる相談事例が増えているので、民生委員やケアマネジャー対象に障害の特性や対応に基本的知識習得に向け、勉強会を開催した。

○ねっとわーく青葉のエリア会議を9月に開催した。高齢者が自立した生活が送れるよう支援できるよう、多職種との意見交換を図った。

(5) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

・総合事業業務について、予防プラン委託の居宅担当者へはプラン作成時や担当者会議時に助言を行い地域のインフォーマル情報を案内した。またエリアのケアマネジャーを対象に、ICF理念に基づきインフォーマル情報を組み込んだプラン作成について介護予防従事者研修を行った。包括プランナーへは毎月のミーティングなどでケースの確認を行った。

・事業対象者はまだいない状況。

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

・地域の老人会へは3職種又は4職種で1回以上参加し、ケアプラザの周知と介護予防などの講義を行った。自治会へのかかわりはできなかったが、老人会や地区社協、民生委員などとは連携して行った。

・元気づくりステーションについては月1回程度参加し、活動の支援を行った。参加者が減少傾向の奈良山ノルディックウォーキングは体験会を開催し地域へ活動の周知を行った。スクエアステップ体験会も行い、元気づくりステーションではないサークルについても新たな参加者を呼び込むことができた。

・介護予防教室は計画通り2か所で行い、「60歳からの知っ得くセミナー」の連続講座では今まで予防講座に参加のなかった住民の参加が多かった。

5 その他



以下、地域ケアプラザ事業実施評価との相違部分

施設の適正な管理について

(1) 施設の維持管理について

設備管理委託業者と年間保守点検計画に基づき、定期点検と不良箇所の整備・改善を行う。施設設備において業務上支障がある場合、職員から依頼された修理・修繕依頼書により早期の改善を図り、利用者が安心して活用できる環境をめざした。

日常清掃・定期清掃については掃除業者に委託し、不足部分については各部署の職員が実施し、また、消耗品等については不足が生じないように点検日を設け、点検・補充を行ってきた。昨年度法人で建物(管理等)の大規模修繕を行い、建物の防水工事並びに空調機械の入れ替えを行ったがその費用は、役所に相談したが、市からの補助もなく、したがって、ケアプラザで負担することが叶わず法人全体の経営に負荷がかかっている。青葉メゾンのお金で修繕した施設に対し、ケアプラザが自分たちの管理区域と主張することは恥ずかしくもあり、改めて市・区と話をしていきたいと感じた1年であった。

(2) 効率的な運営への取組について

事業毎の会議を定期的に行い、スピードのある対応を大切にしてきた。一方、具体的な個々の支援に関しては、効率性を求めることができないし求めてはならないため、丁寧に時間をかけて対応してきた。

これまで通り、デイサービス、地域交流、居宅介護支援、包括支援センターの4部門がお互いに各々の運営について情報を共有し、特に地域の問題や利用者支援については、重複は恐れず、欠落が無いようお互いに支えるしくみを継続してきた。

職員体制については、今年度所長が生活支援C○を兼務してスタートしたが、引き続き仕事に対する充足感を地域住民・職員共に持ってもらえるよう業務・体制に配慮しつつ、サービスの質の向上を図り続けたいと努めてきた。

(3) 苦情受付体制について

受け付け体制については、これまで同様である。体制が整っていても、いざ、苦情解決の実行に移せないようでは困ったものであると考える。

苦情に対しての最善の解決はすぐに動く・対応することである。苦情受付担当者・解決責任者を明記した案内の掲示や、重要事項説明書の説明と交付に際し、苦情受付について周知をするのは当然である。築き上げてきた信頼関係を崩すのは容易く、再構築は大きな困難を伴うことを肝に銘じ、即座の対応を心がけてきた。また、利用者アンケートの実施や意見箱により、相談や苦情が気軽に伝えられる環境を整え、ご意見をいただくことはなかったが、会議等の場において情報を共有、課題の整理を行い広報等による回答を行っていく姿勢を持ち続けてきた。

クレームは、よい関わり・支援への肥やしであることを心にとどめ、事業所全体で苦情案件を常に意識し、サービスの改善を積極的に進めてきた。

(4) 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

防犯については遅番が巡回し、施錠の確認を行ってきた。職員室に警備機械を設置。施錠後、侵入者があれば、警備会社が駆けつけることになっている。

防災については、当法人の「防災マニュアル」に基づき、災害時特別避難場所として備蓄物資の在庫管理と補充を行ない、年間計画に基づき防災訓練と防災教育を実施してきた。

防災訓練では施設の利用者を含めた防災訓練計画を立案・実施し、地域の方々への周知と組織的な動きがとれるよう努めてきた。また、地域の「奈良小学校地域防災拠点運営委員会」に参加し、知識の向上と地域の安全対策に協力してきた。

介護保険が施行され、公の責任の存在が分散化され、より曖昧になってゆく中、東日本大震災・熊本大地震の体験をもとに、利用者の安全の確保・安否確認、職員の参集方法等を試行錯誤している。

(5) 事故防止への取組について

リスクマネジメントとして、定期的に会議、回覧等で、ヒヤリハット・事故報告の事例を報告し合い、組織全体として事故防止に取り組んでいることの確認を行った。また、組織全体の情報の共有化と教育システムの整備を継続して行った。職員会議、各部門の会議、始業・終業時の打合せ等を通して、利用者に対する対応・車両事故の防止（安全運転の励行）・給食、衛生管理等の充実・事務ミスの防止等について、より具体的事例を提示しながら周知し、業務のマニュアル、事故発生時の対処マニュアルの確認を継続してきた。

事故発生時は速やかに対処し、利用者・職員の安全確保を最優先に、またすぐ行動することを第一に事態の收拾にあたる。これは、結果として関係者との信頼関係を維持する最善の策と考える。対応後には、事故報告書を作成し、上記のとおり会議等において周知、再発防止に努めてきた。

(6) 個人情報保護の体制及び取組について

職員及び委託業者との「個人情報保護に関する契約書」を取り交わし、福祉業務に携わる者の基本原則であり、職業倫理として当然の個人情報の保護を認識し、研修等を通してその徹底を図ってきた。

個人ファイルの管理に関しては施錠可能な棚にて管理し、鍵の管理に関しても管理者が適切に管理する。個人情報に記載されている書類や記録媒体は自宅への持ち帰りを禁止し、やむを得ない理由で外部に持ち出す場合には、管理者の許可を得た上で適切な取り扱いを行う。個人情報を送付する場合は郵送を基本とするが、FAXを使用する場合はマスキングや二重チェック等を行い相手への到達を確認した。

他事業所（指定管理以外の介護保険事業所）からの個人情報の対応について不足・課題がある場合には、きちんとした対応を求め、業界全体の意識の底上げに役所とともに取り組んできたつもりである。

(7) 情報公開への取組について

法人新聞（広報誌）の発行により事業内容などを引き続き公開した。また、ホームページによる事業内容の公開を行い、広報誌の定期発刊や運営協議会、地域での集まり等さまざまな機会をとらえて、複合施設としての事業や方針等を情報として公開してきた。一方、社会福祉協議会、横浜市健康福祉局の設置によるインターネットを利用した情報公開に積極的に呼応し、当ケアプラザの情報公開を推進した。

(8) 人権啓発への取組について

地域に対する人権啓発を行うためには、まずそれを実施する地域ケアプラザの職員が、職場内においてお互いに関心を持ち、お互いを思いやる優しさがあることが前提である。プラザとしては当然取り組むべきことに対して、このような(人権啓発の)項目が設けられ、意識化を求められること自体引き続き恥ずかしく思ってきた。

どのような支援を行っても働きかけの当事者であるケアプラザの職員が優しさを持っていなければ意味がない。まずは、権より始めよ、で自分たちの職場における実践を繰り返してきた。これが人権意識育成の肝要であり、少なくともプラザを利用する地域住民への人権啓発は職員が手本となることで十分行えると考え続けている。

人権問題は、人の人に対する優しさの欠如と無知から生まれるとのスタンスに立ち、優しいかわりの実践と地域住民との対話を継続してきた。

(9) 環境等への配慮及び取組について

事業用大規模建築物として、廃棄物処理・給食業務委託業者と連携し、横浜市のルールに基づきごみの減量化、資源化を進める努力を継続した。また、雨水利用・大気汚染等環境保全を推進した。また、施設管理研修で得た情報を基に、昨年度設置した太陽光発電システム等当施設の省エネルギー対策に継続的に取り組み、ガス、電気のコスト削減と大気汚染に配慮した。さらに、緑の推進団体（横浜市緑の協会）の協力を得て、周辺地域の方々や障害部門の保護者と協働で計画道路や駐車場、敷地内の花壇の整備に努めてきた。

植栽については定期的に業者に剪定を依頼し、また、病気になったり、枯れたりした樹木の植え替えを定期的に行い、施設周辺の美観保持に努めてきた。

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

管理者（介護支援専門員兼務）： 常勤兼務 1名
 主任介護支援専門員： 常勤専従 1名
 介護支援専門員： 常勤 2名

《目標に対する成果等》

利用者、家族の主訴、ニーズを聞き取り、必要に合わせて指定居宅サービス事業所等を提案し公平・中立な立場で居宅サービス計画を作成、また実施ができた。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- 通常の事業実施地域を越えて行う居宅サービス計画の作成に要した交通費はその実費を徴収する。その際には、事前に文書で説明した上で、支払いに同意する旨の文書に署名を貰うこととしている。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

地域の多様なニーズにお答えできるよう十分な職員を配置し、迅速かつスムーズなサービス提供に努める。また、適切なサービス提供が行えるよう、積極的に各種研修に参加し、職員の資質向上に努める。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。 6月 7月 8月 【単位：人】

113	114	116	124	128	128
10月	11月	12月	1月	2月	3月
129	128	125	127	128	131

平成30年度 自主事業収支報告書

奈良地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者	自主事業決算額							
	②参加人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
えんがわ倶楽部	高齢者	¥129,652	地活	¥71,952	¥57,700		¥5,000	¥7,740	¥116,912
	116名		包括						
	1回500円		介護						
			生活						
唄声ひろば	高齢者	¥0	地活						
	343名		包括						
	1回100円 会会計		介護						
			生活						
男性のための 料理教室 「親父の味一番」	男性高齢者	¥0	地活						
	60名		包括						
	1回1,000円 会会計		介護						
			生活						
囲碁教室	高齢者	¥0	地活						
	123名		包括						
	無料		介護						
			生活						
書道教室 硯友会	高齢者	¥0	地活						
	104名		包括						
	1回500円 会会計		介護						
			生活						
押絵教室	地域住民	¥19,500	地活	¥7,000	¥16,500			¥16,500	¥3,000
	11名		包括						
	1回1,500円		介護						
			生活						
おさんぽ広場	未就園児と保護者	¥11,147	地活	¥11,147				¥4,753	¥6,394
	491名		包括						
	無料		介護						
			生活						
わらべうた ベビー マッサージ	未就園児と保護者	¥34,000	地活	¥0	¥34,000			¥34,000	
	136名		包括						
	1回500円		介護						
			生活						
リトミック ならら♪	未就園児と保護者	¥127,500	地活	¥2,000	¥125,500			¥127,500	
	492名		包括						
	1回500円		介護						
			生活						
土曜日は 家族で ケアプラザへ 行こう！！	小学生と保護者	¥2,640	地活	¥2,640					¥2,640
	22名		包括						
	無料		介護						
			生活						
親子で楽しむ パネルシアター	未就園児と保護者	¥15,791	地活	¥15,791					¥15,791
	57名		包括						
	無料		介護						
			生活						
小学生 書初め教室	小学生	¥840	地活	¥840					¥840
	21名		包括						
	無料		介護						
			生活						

事業ごとに別紙に記載してください。

平成30年度 自主事業収支報告書

奈良地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者	自主事業決算額						
	②参加人数	総経費	収入			支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他
子ども料理教室	小学生と保護者	¥0	地活					
	18名		包括					
	無料 ヘルスマイト会計		介護					
			生活					
あそぶんジャー!!	区内在学齢障がい児	¥0	地活					
	13名		包括					
	青葉メゾン会計		介護					
			生活					
ポピュラーソングコンサート	地域住民	¥3,490	地活	¥3,490				¥3,490
	62名		包括					
	無料		介護					
			生活					
海の日コンサート	地域住民	¥2,829	地活	¥2,829				¥2,829
	54名		包括					
	無料		介護					
			生活					
会場利用団体交流会	会場利用団体	¥3,438	地活	¥3,438				¥3,438
	35名		包括					
	無料		介護					
			生活					
ここならカフェ	地域住民	¥77,617	地活	¥1,001		¥6,000		¥7,001
	237名		包括	¥38,116	¥32,500		¥6,534	¥64,082
	1回100円		介護					
			生活					
介護者のつどいケアラズCafe	介護者	¥4,830	地活					
	17名		包括	¥4,830				¥4,830
	無料		介護					
			生活					
介護教室	地域住民	¥16,527	地活				¥11,137	
	111名		包括	¥16,527				¥5,390
	無料		介護					
			生活					
60歳からの知っ得くセミナー	概ね60歳以上	¥17,260	地活					
	161名		包括	¥17,260			¥8,000	¥9,260
	無料		介護					
			生活					
青葉メゾン・奈良地域ケアプラザ祭り	地域住民	¥7,968	地活	¥7,968				¥3,638
	約1000名		包括					¥4,330
	無料 実行委員会会計		介護					
			生活					
おいしく！楽しく！生き生き健康講座	地域住民	¥0	地活					
	22名		包括					
	無料 ヘルスマイト会計		介護					
			生活					
ゆかた着つけ教室	地域住民	¥3,720	地活	¥3,720				¥3,720
	9名		包括					
	無料		介護					
			生活					

事業ごとに別紙に記載してください。

平成30年度 自主事業収支報告書

奈良地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者	自主事業決算額						
	②参加人数	総経費	収入			支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他
子育てサポートシステム説明会	子どもを預けたい、預かりたい方	¥0	地活					
	4名		包括					
	無料		介護					
			生活					
子育てならまち探検スタンプラリー	未就園児と保護者	¥1,181	地活	¥581	¥600			¥1,181
	13名		包括					
	100円		介護					
			生活					
奈良花の会	地域住民	¥0	地活					
	57名		包括					
	無料 奈良花の会会計		介護					
			生活					
あおばカノン2019	地域住民	¥0	地活					
	—		包括					
			介護					
			生活					
			地活					
			包括					
			介護					
			生活					
			地活					
			包括					
			介護					
			生活					
			地活					
			包括					
			介護					
			生活					
			地活					
			包括					
			介護					
			生活					
			地活					
			包括					
			介護					
			生活					
			地活					
			包括					
			介護					
			生活					

事業ごとに別紙に記載してください。

平成30年度 自主事業報告書

奈良地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
えんがわ倶楽部	高齢者ミニデイサービス 介護予防、自立支援を念頭に様々な活動を通して地域の高齢者同士が交流を持ち、引きこもりを予防し健康で生き生きとした生活が送れるよう支援。また随時、福祉保健の情報を提供し、日常的に相談ができる関係を築いていく。「いつまでも生き生き健康に！」をテーマに月に1回集まり、健康体操など介護予防を重視した活動も取り入れる。演奏会・工作・講話・レクリエーション等を実施。	毎月1回 (8月を除く) 年間11回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
唄声ひろば	高齢者自立支援事業 唄を通して健康維持・仲間作り・高齢者閉じこもりの予防福祉保健の情報等の提供および相談機関との関係構築を図る。「歌声喫茶」	毎月1回 (8月を除く) 年間11回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
男性のための料理教室 「親父の味一番」	男性高齢者自立支援、男性の料理教室 仲間作り・高齢者閉じこもりの予防。福祉保健の情報等の提供及び相談機関との関係構築を図る。	毎月1回 (8月、12月、1月除く) 年間9回実施

事業名	目的・内容	実施時期・回数
囲碁教室	高齢者自立支援、囲碁教室 仲間作り・高齢者閉じこもりの予防。福祉保健の情報等の提供および相談機関との関係構築を図る。	毎月2回 (8月、1月は月1回) 年間22回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
書道教室 硯友会	高齢者自立支援、書道教室 仲間作り・高齢者閉じこもりの予防。福祉保健の情報の提供および相談機関との関係構築を図る。	毎月1回 年間12回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
押絵教室	地域住民の方々に押絵を通して、施設に足を運んで頂き、福祉施設の機能や役割を理解して頂く。	12月 年間1回

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
おさんぽ広場	子育て支援事業 未就園児と保護者のためのフリースペース。 集団生活に馴染んで頂き仲間作りを図る。ニーズの把握。 子育て相談機関・情報を周知する。 奈良地区及び奈良北地区民生・児童委員共催。	毎月2回 (1月は月1回、 8月は除く) 年間21回
わらべうた ベビー マッサージ	子育て支援事業 生後2か月からハイハイ期までの赤ちゃんとその保護者を 対象に、外に出るきっかけ作りと子育ての楽しさ、親同士 の交流、ストレスの軽減を図り、子育ての身近な相談窓口 としてのケアプラザの周知を目的とする。 赤ちゃんの心身の発達と精神の安定を目的に、赤ちゃんに リラックス感を母親の手から伝えてあげながらマッサージ を行う。	毎月1回 (8月を除く) 年11回
リトミック ならら♪	子育て支援事業 1～2歳児、2～3歳児で時間を分けて実施。 未就園児の頃から音楽に触れることで、リズム感や音楽感 性、身体の動きなどを身に付ける。また、親同士の交流や ストレスの軽減を図り、子育ての身近な相談窓口としてケ アプラザの周知も目的とする。	月2回 年間24回
土曜日は 家族で ケアプラザへ 行こう！！	日頃ケアプラザへ来ることの少ないお父さんを巻き込んだ 家族向けの子育て支援事業。 お父さんのみだとケアプラザへ来にくい可能性が高いと考 え、各家庭で活用できる術などを家族で共有してもらおう。 また、お父さん同士の交流や悩みを共有できるきっかけ作 りの場にしよう。	年4回
親子で楽しむ パネルシアター	目的・内容等 保育園・幼稚園に通っていない幼児とその親を対象にパネ ルシアターや読み聞かせを通して交流を図るとともに、今 後の子育て支援事業に対するニーズの把握を行う。また、 ケアプラザにて子育て支援を実施していることを周知して いく。	7月、12月 年間2回
小学生 書初め教室	目的・内容 小学生と地域住民である高齢者が書道を通して交流を図 る。 これから学ぶことの多い小学生に字の書き方や筆の使い方 などの基本的な事を学んでもらう。また、硯友会(書道教 室)の方たちは教える立場になる為、自らの活動の振り返 りの場となる。	12月 年1回

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
子ども料理教室	子どもたちができる食事作り。 媒体を使った食育講座。 ヘルスメイト共催事業。	年1回 7月

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
あそぶんジャー!!	地域障害児への余暇活動の場の提供。 (料理・制作活動・フラワーアレンジメント・外出・キャンプ等) 障害や年齢を超えた地域の交流。地域の実態やニーズの把握。障害の理解を伴うボランティア育成。 対象：小学校3年生～高校3年生	年2回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ポピュラーソングコンサート	地域住民の方々に、気軽にコンサートを楽しんでいただくと共に、施設の機能や役割を理解していただく機会とする。	6月 年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
海の日コンサート	地域住民の方々に音楽を通し絵、施設に足を運んで頂き、福祉施設の機能や役割を理解していただく。 地域福祉保健支援団体の活動の場を提供。市民オーケストラの演奏会。	7月 年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
会場利用団体交流会	ケアプラザ会場利用団体のネットワーク構築のための親睦会。 ケアプラザの役割や事業PR及び会場利用に際しての案内各団体の自己紹介等。	6月 年1回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ここならカフェ	認知症カフェ 認知症進行予防のために、認知症予防プログラム、認知症に対する正しい理解と支援のあり方、認知症高齢者等が地域で安心して暮らしていけるよう地域住民を対象に認知症の普及啓発や認知症予防を目的とする。	月1回 年12回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
	介護者同志のピアカウンセリングの場を定期的で開催し、	

平成30年度 自主事業報告書

介護者のつどい ケアラズ C a f e	介護方法や介護で困っていることをひとりで抱え込まずに介護負担の軽減に繋げられるように支援する。またアドバイザーにも同席してもらい、介護に関する助言や情報提供等をしてもらう。	年6回
----------------------------	--	-----

事業名	目的・内容	実施時期・回数
介護教室	介護に関心のある方を対象に講演や講座等を行い、介護に関わる知識・技術の普及啓発を行うと共に、介護者の軽減につなげる。	年3回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
60歳からの 知っ得く セミナー	人生100年時代に備え、いつまでも健康で若々しく充実した人生の円熟期を迎えるために、日々の暮らしの中でどのようなことを心がければ良いのか、いつか誰もが直面する老後の問題に備え、元気なうちから学ぶ。	年8回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
青葉メゾン 奈良地域 ケアプラザ祭り	福祉保健祭り 地域住民の方々に事業の内・外から参加していただき、祭りを通して施設の情報等を提供すると共に、福祉施設の機能や役割を理解していただく。	10月 年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
おいしく！ 楽しく！ 生き生き 健康講座	バランス良く食べる、体を動かす大切さを学び、食生活を充実させて健康長寿を伸ばす。 恩田地区ヘルスマイト共催 パワーポイントを使用し食生活に関する講話 短時間でできる料理の紹介・試食	9月 年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ゆかた 着つけ教室	「奈良すみれ会」を講師として、ゆかたの着方、基本的な帯の結び方、ゆかたのたたみ方の講習。 地域のお祭りの直前に浴衣の着方を学び、自分でゆかたを着たり親子で気軽に浴衣を楽しむ一助とする。 日本の夏を浴衣で楽しむ文化を大切にする。	7月 年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
	子育てサポートシステム会員登録の概要説明。 安心して子育てができるよう、地域ぐるみでの子育て支援や、仕事と育児を両立できる環境を作ることを目的とす	

平成30年度 自主事業報告書

子育てサポートシステム説明会	る。	7月 年1回
----------------	----	-----------

事業名	目的・内容	実施時期・回数
子育てならまち探検スタンプラリー	奈良町の子育てスポットを子どもと一緒に歩いて探検探検後、ケアプラザで昼食を食べながら交流会を実施	11月 年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
奈良花の会	地域住民を対象にどなたでも参加できる園芸を通して、地域での仲間作りを行う。また、それぞれの経験や考えを生かし、自主的な活動を継続していけるよう活動を支援し、社会参加を促していく。 ・四季折々の花々の育成（水やり、雑草抜き）、はるかのひまわりの育成 ・2ヶ月に一度ケアプラザにて連絡会（意見交換や交流会）	偶数月 第1土曜日 年6回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
あおばカノン 2019	青葉区民による自然災害復興支援チャリティーコンサート。 団体・個人ともボランティアとしてコンサートに参加、または模擬店を出店し、ご来場の方々に楽しんでいただくと共に会場内で募金活動を実施。 主催：レントの会	3月 年1回

平成30年度「奈良地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書(一般会計)<地域活動>

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	17,989,092		17,989,092	17,989,092	0	横浜市より
利用料金収入			0		0	この列は入力しない
指定管理料充当 事業			0		0	
自主事業収入			0		0	この列は入力しない
雑入	0		0	70,610	70,610	
印刷代			0	44,610	44,610	
自動販売機手数料			0	0	0	この列は入力しない
駐車場利用料金収入			0	26,000	26,000	この列は入力しない
その他(指定管理充当分)			0		0	
その他(施設使用料相当額 法人負担分)			0		0	
その他(提案時控除 法人負担分)			0		0	
収入合計	17,989,092	0	17,989,092	18,059,702	70,610	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	11,849,923		11,849,923	12,122,560	272,637	
本俸	8,386,054		8,386,054	6,639,500	1,746,554	
社会保険料	1,623,290		1,623,290	1,665,100	41,810	
手当計	1,604,696		1,604,696	3,606,103	2,001,407	
健康診断費	61,560		61,560	29,849	31,711	
勤労者福祉共済掛金	6,000		6,000	61,168	55,168	ハマふりんご
退職給付引当金繰入額	123,823		123,823	120,840	2,983	
その他	44,500		44,500	0	44,500	
事務費	2,915,014		2,915,014	3,187,866	272,852	
旅費	0		0	0	0	
消耗品費	600,000		600,000	472,494	127,506	
会議随いつい	0		0	0	0	
印刷製本費	0		0	0	0	
通信費	312,000		312,000	306,401	5,599	
使用料及び賃借料	0		0	298,860	298,860	
横浜市への支払分			0	277,000	277,000	
その他			0	21,860	21,860	
備品購入費	50,000		50,000	0	50,000	
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	98,538		98,538	103,062	4,524	
職員等研修費	24,000		24,000	4,668	19,332	
振込手数料	6,000		6,000	4,104	1,896	
リース料	0		0	847,002	847,002	
手数料	0		0	10,000	10,000	
地域協力費	0		0	82,830	82,830	
その他	1,824,476		1,824,476	1,058,445	766,031	
事業費	454,000		454,000	139,505	277,003	
運営協議会経費	42,000		42,000	4,508	37,492	予算-指定額
指定管理料充当 事業	412,000		412,000	134,997	277,003	
管理費	6,423,130		6,423,130	6,000,673	856,483	
建築物・建築設備点検	738,000		738,000	1,890,985	1,152,985	予算-指定額
光熱水費	3,360,000		3,360,000	3,793,026	433,026	
電気料金					0	
ガス料金					0	この列は入力しない
水道料金					0	
清掃費	924,000		924,000	0	924,000	
修繕費	474,000		474,000	316,662	157,338	予算-指定額
機械整備費	0		0	0	0	
設備保全費	927,130		927,130	0	927,130	
空調衛生設備保守	296,525		296,525	0	296,525	
消防設備保守	296,525		296,525	0	296,525	
電気設備保守	0		0	0	0	
害虫駆除清掃保守	190,080		190,080	0	190,080	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	144,000		144,000	0	144,000	
共益費	0		0	0	0	
その他	0		0	0	0	
公租公課	900,000	0	900,000	969,804	69,804	
事業所税			0		0	この列は入力しない
消費税	900,000		900,000	969,804	69,804	
印紙税					0	この列は入力しない
その他()					0	この列は入力しない
事務経費 (計算根拠を説明欄に記載)	0	0	0	0	0	この列は入力しない
本部分					0	この列は入力しない
当該施設分					0	この列は入力しない
二一対対応費					0	この列は入力しない
支出合計	22,542,067	0	22,542,067	22,420,408	121,659	
差引	4,552,975	0	4,552,975	4,360,706	587,803	

自主事業費収入	412,000		412,000	0	412,000	
自主事業費支出	412,000		412,000	0	412,000	
自主事業収支	0	0	0	0	0	→自主事業(指定管理料充当の自主事業)費

管理許可・目的外使用許可収入	0		0		0	駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出	0		0		0	使用料(横浜市への支払等)
管理許可・目的外使用許可収支	0		0		0	

平成30年度「奈良地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書(特別会計)

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料(包括)	23,186,973		23,186,973	23,186,973	0	横浜市より
指定管理料(介護予防)	149,440		149,440	149,440	0	横浜市より
指定管理料(生活支援)	5,789,000		5,789,000	5,789,000	0	横浜市より
利用料金収入			0		0	
指定管理料充当事業(包括)			0		0	
指定管理料充当事業(介護予防)			0		0	
指定管理料充当事業(生活支援)			0		0	
自主事業収入			0		0	
雑入	0	0	0	72,000	72,000	
印刷代			0		0	
自動販売機手数料			0		0	
駐車場利用料収入			0	72,000	72,000	
その他(指定管理充当)			0		0	
その他(提案時控除 法人負担分)			0		0	
収入合計	29,125,413	0	29,125,413	29,197,413	72,000	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	23,417,250	0	23,417,250	22,972,486	444,764	
本俸	16,064,273		16,064,273	11,178,450	4,885,823	
社会保険料	3,101,922		3,101,922	3,074,535	27,387	
手当計	3,286,458		3,286,458	8,103,702	4,817,244	
健康診断費	143,640		143,640	40,028	103,612	
勤労者福祉共済掛金	3,000		3,000	183,563	180,563	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	372,957		372,957	392,208	19,251	
その他	445,000		445,000		445,000	
事務費	2,171,929	0	2,171,929	5,245,068	3,073,139	
旅費	24,000		24,000	9,266	14,734	
消耗品費	480,000		480,000	517,615	37,615	
会議贈い費	0		0	0	0	
印刷製本費	0		0	10,000	10,000	
通信費	204,000		204,000	186,525	17,475	
使用料及び賃借料	0	0	0	185,000	185,000	
横浜市への支払分			0	185,000	185,000	
その他			0	0	0	
備品購入費	50,000		50,000	0	50,000	
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	239,713		239,713	228,113	11,600	
職員等研修費	381,600		381,600	145,221	236,379	
振込手数料	30,000		30,000	33,948	3,948	
リース料	62,000		62,000	379,942	317,942	
手数料	0		0	10,000	10,000	
地域協力費	0		0	6,000	6,000	
その他	700,616		700,616	3,533,438	2,832,822	
事業費	1,233,440	0	1,233,440	856,297	377,143	
協力医	630,000		630,000	630,000	0	予算:指定額
指定管理料充当自主事業(包括)	145,000		145,000	76,733	68,267	
指定管理料充当自主事業(介護予防)	149,440		149,440	149,564	124	
指定管理料充当自主事業(生活支援)	309,000		309,000	0	309,000	予算:指定額
管理費	5,047,661	0	5,047,661	1,595,108	3,452,553	
建築物・建築設備点検	0		0	502,665	502,665	予算:指定額
光熱水費	1,260,000	0	1,260,000	1,008,272	251,728	
電気料金			0		0	
ガス料金			0		0	
水道料金			0		0	
清掃費	252,000		252,000	0	252,000	
修繕費	126,000		126,000	84,171	41,829	予算:指定額
機械警備費	0		0	0	0	
設備保全費	436,061	0	436,061	0	436,061	
空調衛生設備保守	80,870		80,870	0	80,870	
消防設備保守	80,871		80,871	0	80,871	
電気設備保守	0		0	0	0	
害虫駆除清掃保守	25,920		25,920	0	25,920	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	248,400		248,400	0	248,400	
共益費	0		0	0	0	
その他	2,973,600		2,973,600	0	2,973,600	
公租公課	0	0	0	0	0	
事業所税			0		0	
消費税	0		0		0	
印紙税			0		0	
その他()			0		0	
事務経費(計算根拠を説明欄に記)	0	0	0	0	0	
本部分			0		0	
当該施設分			0		0	
二一ス対応費			0		0	
支出合計	31,870,280	0	31,870,280	30,668,959	1,201,321	
差引	2,744,867	0	2,744,867	1,471,546	1,273,321	

自主事業費収入						
自主事業費支出						
自主事業収支	0			0		⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費

管理許可・目的外使用許可収入				72,000		駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人
管理許可・目的外使用許可支出				185,000		使用料(横浜市への支払等)、駐車場設備保全費
管理許可・目的外使用許可収支				113,000		

平成 30年度 地域ケアプラザ収支予算書及び報告書<介護保険事業分>

施設名: 奈良地域ケアプラザ

平成30年4月1日～平成31年3月31日
(単位:千円)

	科目	介護予防支援			居宅介護支援			通所介護			予防通所介護・第1号通所介護		
		予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引
収入	介護保険収入	4,999,760	4,999,760	0	26,512,000	24,770,087	1,741,913	57,497,240	68,233,658	△ 10,736,418			0
	その他	136,320	136,320	0	36,000	382,750	△ 346,750	1,567,680	1,348,150	219,530	0	0	0
	介護予防ケアマネジメント費			0			0			0			0
	事業・負担金収入			0			0			0			0
				0			0			0			0
				0			0			0			0
				0			0			0			0
	その他	136,320	136,320	0	36,000	382,750	△ 346,750	1,567,680	1,348,150	219,530			0
収入合計(A)	5,136,080	5,136,080	0	26,548,000	25,152,837	1,395,163	59,064,920	69,581,808	△ 10,516,888	0	0	0	
支出	人件費	3,274,880	3,274,880	0	21,763,000	22,024,630	△ 261,630	37,661,120	38,777,058	△ 1,115,938			0
	事務費	229,680	229,680	0	3,625,000	3,722,502	△ 97,502	2,641,320	3,025,807	△ 384,487			0
	事業費	1,205,760	1,205,760	0	0	0	0	13,866,240	14,206,908	△ 340,668			0
	管理費	458,400	458,400	0	174,000	174,000	0	5,271,600	5,271,600	0			0
	その他	172,160	172,160	0	341,000	604,116	△ 263,116	1,979,840	1,781,664	198,176	0	0	0
	利用者負担軽減額			0			0			0			0
	消費税			0			0			0			0
	介護予防プラン委託料			0			0			0			0
その他	172,160	172,160	0	341,000	604,116	△ 263,116	1,979,840	1,781,664	198,176			0	
支出合計(B)	5,340,880	5,340,880	0	25,903,000	26,525,248	△ 622,248	61,420,120	63,063,037	△ 1,642,917	0	0	0	
収支 (A) - (B)	△ 204,800	△ 204,800	0	645,000	△ 1,372,411	2,017,411	△ 2,355,200	6,518,771	△ 8,873,971	0	0	0	

※ 介護予防プランを他事業者へ委託する場合の取扱は、介護報酬を一旦全額収入に計上した後、他事業者へ委託料として支払う分を支出に計上してください。

※ 上記以外の事業(認知症対応型通所介護等の事業)を実施している場合は、事業ごとに列を増やして同様に記載をしてください。